

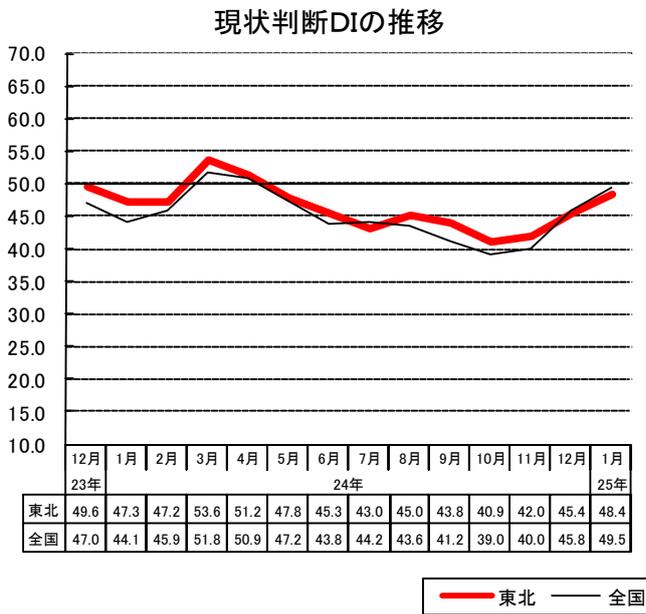
報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 25 年 1 月東北分
 (新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 25 年 1 月東北分（新潟を含む東北 7 県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断 DI「48.4」(+3.0)は、3か月連続で前月を上回ったものの、景気判断の基準となる 50 を9か月連続で下回った。



- ・家計動向…初売りは好調だったものの、その後、寒さと降雪が客足を鈍らせ、消費に悪影響を与えた。DI は「45.3」(▲0.4)と3か月ぶりに前月を下回り、基準値 50 を9か月連続で下回った。

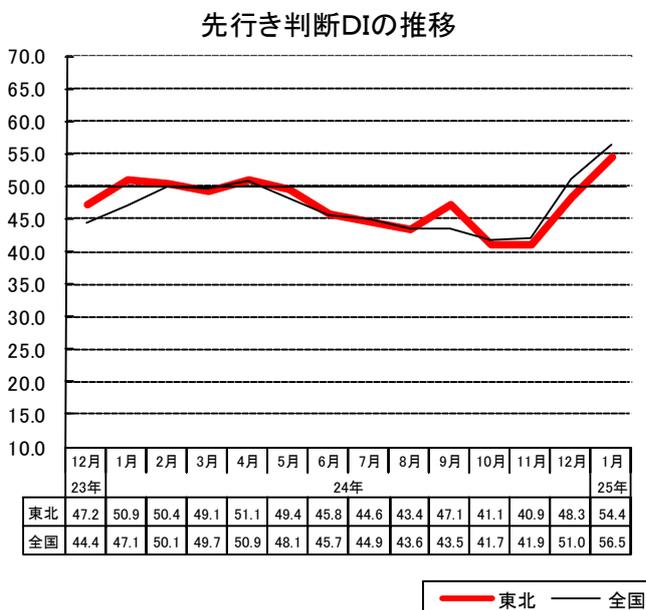
- ・企業動向…為替が円安に動いていることにより、受注・販売環境が改善されている。DI は「53.6」(+10.5)と3か月連続で前月を上回り、基準値 50 を10か月ぶりに上回った。

- ・雇用動向…DI は「59.1」(+11.4)と2か月連続で前月を上回り、基準値 50 を4か月ぶりに上回った。

- ・プラスのキーワード：円安・株高
- ・マイナスのキーワード：天候

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断 DI「54.4」(+6.1)は、2か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる 50 を9か月ぶりに上回った。



- ・家計動向…気候が暖かくなり人と物の動きが活発になる。新入学、就職等の春先の需要と新政権の経済対策への期待感がみられる。DI は「52.9」(+5.5)と2か月連続で前月を上回り、基準値 50 を33か月ぶりに上回った。

- ・企業動向…新政権の経済対策により企業の経営環境が良くなることが期待されている。DI は「59.5」(+9.5)と3か月連続で前月を上回り、2か月連続で基準値 50 以上となった。

- ・雇用動向…DI は「54.5」(+3.4)と2か月連続で前月を上回り、基準値 50 を2か月連続で上回った。

- ・プラスのキーワード：新政権、円安・株高
- ・マイナスのキーワード：(なし)

<参 考>

■DIの推移※

(1) 現状判断(方向性)DI

	23年		24年										25年	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
東北現状	49.6	47.3	47.2	53.6	51.2	47.8	45.3	43.0	45.0	43.8	40.9	42.0	45.4	48.4
家計動向関連	46.7	43.9	43.0	52.3	50.2	47.0	42.7	41.0	43.4	42.1	41.0	41.1	45.7	45.3
企業動向関連	51.3	50.0	51.2	51.3	47.5	46.9	48.8	46.3	46.3	45.1	37.2	42.5	43.1	53.6
雇用関連(参考)	65.5	64.3	66.7	66.7	64.8	54.5	55.7	50.0	53.4	52.3	47.7	46.6	47.7	59.1

(2) 先行き判断DI

	23年		24年										25年	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
東北先行き	47.2	50.9	50.4	49.1	51.1	49.4	45.8	44.6	43.4	47.1	41.1	40.9	48.3	54.4
家計動向関連	44.3	48.4	48.2	46.9	49.5	49.3	43.8	43.3	40.2	46.2	40.2	39.2	47.4	52.9
企業動向関連	51.3	54.3	54.9	51.3	55.6	48.8	49.4	48.8	50.6	49.4	42.1	45.0	50.0	59.5
雇用関連(参考)	58.3	60.7	56.0	59.5	53.4	51.1	52.3	45.5	51.1	48.9	44.3	44.3	51.1	54.5

※DI (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成25年1月25日～31日

回答者数 209/210名、回答率99.5%(全国1,858/2,050名、90.6%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL: 022-222-3394 FAX: 022-222-3395

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（商店街）…例年になく雪に見舞われており、やはり客の出足にはかなり影響を与えている。期待した初売りであったが、2日はまだしも3日の荒天に泣かされた。結果として来客数は減少となったが、ターゲットを絞って必需品をセットした福袋に力点を置き、購買単価増で前年をクリアした店もある。

（医薬品販売店）…例年1月は年末の繁忙の反動から、売上がかなり悪化するのが通例である。今月の売上は3か月前と大差ないとはいえ、上記の通例をあわせて解釈すれば、やや良くなっていると判断できる。データ上、年間の平均的な客単価と比べ、今月も大きな変動が見られないので、この改善傾向は来客数の改善からきているといえる。

（百貨店）…冬のクリアランスセールを例年の2日の初商から18日スタートへ変更したことにより、スタートダッシュは厳しい状況であった。また、毎年のことではあるが、雪により客足が伸び悩んでいる。積雪は売上に直結する厳しい要因である。しかし、18日からのクリアランスセールの成功により、前年比100%まで回復してきている。客が期待する品ぞろえができていたことが勝てた要因の1つである。

（衣料品専門店）…来客数はさほど変わらないが、買足し需要であっても長く利用できる高単価の商品が動いており、トータルで見ると売上高は上向いてきている。

（乗用車販売店）…9月のエコカー補助金終了後落ち込んでいた新車販売も、減税対象の新型車を中心に持ち直してきている。

（靴専門店）…初売りは前年に比べ活気があった。また気温が低く、積雪もある状況で長靴や防滑靴などが売れている。冬物在庫の消化も順調である。

（ショッピングセンター）…3か月前と比較し、売上高の前年比が上昇している。

（電気機械器具製造業）…良くなった最も大きい要因は、円安による輸出業績の改善である。

（広告業協会）…今年の初売りは前年を上回っている企業が多いようである。引き続き2～3月も新聞、テレビ、折込広告関係は引き合いが多い。また、イベント関係も活発になってきていることは景気の回復を示している。

（司法書士）…中古物件を中心に住宅の売買事例が増えている。

（飲食料品卸売業）…先月末ごろより出荷が回復している。特に百貨店向けで数字の良い状態が続いている。飲食店向け、大型小売店向けの出荷は安定している。

（人材派遣会社）…今の大学3年生の就職活動の動きでいくと、不人気な業種への応募が少なくなってきており、外食やアミューズメントの企業が説明会の集客に苦戦している。求職者である学生が選ぶだけの選択肢があるのではないかと推測している。

（新聞社〔求人広告〕）…12月の選挙以降、3か月前より前向きな広告出稿の話が増えている。既に半年後までの具体的な出稿の申込があるものもあり、やや景気が上向いている様子がうかがえる。

○「変わらない」

（百貨店）…初売り、セールなどイベントに対しての来客数は微増となっており、消費マインドも上昇傾向にあるが、実質は客単価の低下など、不要不買のベースは変わっていない。また、天候も大きく影響している。降雪量が前年の倍以上となり、足元が悪く、高齢者の来店数は減となっている。

（スーパー）…前半は客単価も上がっていたものの、半ばより3か月前の状況と同じ動きとなっている。競合店のチラシ価格によって動く客の動きは変わらず、客単価の下落は止まっていない。

（酒類専門店）…地元では豪雪等の影響もあって、新年会などの飲食店の動きが非常に悪い。家庭向けの商材も思ったほどではない状況である。2月の雪祭り等のイベント関連の動きに期待したい。

(ガソリンスタンド) …販売数量の前年割れが続いているため、単価を下げる動きが出てきており、相変わらず収益を圧迫している。為替が円安に動いており、仕入価格が上がり傾向になっているため、更に収益が下がっている。販売が伸びていないため、価格転嫁の動きが業界全体で鈍くなっている。

(一般レストラン) …天候のせいなど様々な点を考慮しても停滞している。おそらく、レストランという業態が特に悪いのではないかと。知り合いの居酒屋などはまずまずの集客だと聞いている。レストランという少し高級なイメージのある所は客が遠ざかっているようである。

(美容室) …3か月前と同様、カラーやカットにプラスで何かをするということがなかなかない。それだけ財布のひもが固く、目的がはっきりしているということのようである。

(設計事務所) …震災による建て替え住宅関連の仕事は少し落ち着いてきている。その他の建物等の話は聞くようになったが、実際に着手するまでは少し時間がかかりそうである。

(金融業) …今冬は降雪量が多く、除雪関連の需要は多い。設備投資に関しては介護施設及びメガソーラー以外は大きな変化は見られない。

(企画業) …相変わらず地場の住宅会社の受注が飽和状態である。飽和状態といっても好況を指すのではなく、供給力が追いついていないことを指している。質の低い住宅建築に関心が高まり、棟当たりの価格が低下傾向にある。

(職業安定所) …求人増加傾向には伸び悩み感はあるが、依然高水準で推移しており、求職者の減少傾向が引き続きみられるため、有効求人倍率も1倍付近での推移が続いている。

○「やや悪くなっている」

(コンビニ) …12月に近隣に新店ができたせいで来客数が減っている。当県全体のトレンドとしても前年を割っている。単価は変わらないが来客数が減っている。

(家電量販店) …来客数は前年比94%と減少している。電化製品では暖房コーナーがまずまず調子は良いが、テレビは相変わらず悪い。

(都市型ホテル) …一般宴会の件数は、新年会を中心に前年並みに推移しているが、動員数は減っている。宿泊部門はオフシーズンということもあり稼働率は伸びず、レストランの利用も少なく、外来客も天候に左右され苦戦をしている。

(観光名所) …寒さや降雪量の多さの影響とみられるが、例年に比べ来客数が少ない。

○「悪くなっている」

(観光型旅館) …予約数が伸びない。冬季はいつも苦戦するが例年以上である。休館日が例年より多く、単純に売上が少ない。運営で経費節約を心がけるも限界がある。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(百貨店) …政権が変わり円安、株価の上昇で含み益が出ているせいか、一部で今まで以上の高額品に動きが出てきている。全体に波及するのは今後も現状況が続けばだが、やや良くなる兆しがみえてきた。

(コンビニ) …今月は来客数及び客単価は前年比2、3%の増加にとどまっているものの、買上点数が6%増加している。これほどの上昇は今までなかったと思われ、今後の明るい材料である。これまでは来客数の増加で売上が伸びる傾向にあったが、これに買上点数のアップが加われば、景気は更に良くなる。

(衣料品専門店) …高校生、大学生の就職率の改善により、フレッシューズでの需要が増えると予想される。

(住宅販売会社) …個人の消費税増税を見越した駆け込み需要と、公共事業発注量増が確実にある。

(電気機械器具製造業) …円安傾向による輸出事業業績の大幅な改善が見込まれる。当社の事業分野における製品需要と供給のバランスが改善し、製品価格が上がりつつある。これらの影響で大きく事業業績が改善する見通しである。

(飲食料品卸売業) … 4月から始まるデスティネーションキャンペーンに向け、観光業を中心にプレイベントの影響が出始めている。観光ホテル、飲食店向けの酒類供給が少しずつ増えていく見込みである。

(人材派遣会社) … 企業採用担当者から攻めの言葉を聞くことが多くなった。特に即戦力営業についてのリクエストが多いのも特徴的である。販売面など売上増加への強い意欲がうかがえる。

○「変わらない」

(スーパー) … 新政権の経済対策の効果が現れるには時間が掛かる。また、より庶民生活に密着する光熱費等の値上がり、また冬場の家計を直撃しているため、景気状況は変わらない。

(家電量販店) … 家電の先食いをしたテレビのぼん回は今後もできない状況が続くので、目立った新製品の発表がない限り、世の中全体が回復基調にあっても、業界にとっては回復は難しい。

(乗用車販売店) … 3月までは今の流れで新車販売が推移するとみられるが、4月以降は自賠責保険の値上げもあり、新車需要にブレーキがかかる懸念もある。

(靴専門店) … 今春の新中学生、新高校生の生徒数は前年とほぼ同数である。大きく減少しないと見込んでいる。

(ガソリンスタンド) … 冬場の暖房需要が3月で落ち着くため、それ以降の需要落ち込みがカバー仕切れない状況が続く模様である。また、為替の円安傾向が続くと原油の仕入価格が上がり、収益が上がらない状況が長引きそうである。また、ガソリンスタンドの地下タンクの規制強化により、廃業するところが出てくることが予想されるため、一層厳しい経営状況が予想される。

(都市型ホテル) … 各部門とも売上を伸ばすこともさることながら、経費削減も重要となり、特に不採算部門のレストランは、閉鎖及び営業時間帯の見直しも視野に入れている。

(通信会社) … 最も期待できる年末の新規加入者の伸びが、例年に比べて大幅に減少した。この先も大きく回復するための材料が見当たらないため、景気回復は期待できない。しかし、新たな出費を控え現状のサービスを継続している顧客が多いため、解約者は減ってきている。このため、この先も景気はあまり変わらないとみている。

(木材木製品製造業) … 住宅部材の需要が強含みであるが、急激な円安で、輸入材の価格転嫁が追い付かず、収益の改善が進まない。

(建設業) … 国家予算の増額等から年度末には量的に上向きに向かうとみられるが、技術者不足、労務者不足やコストアップによる入札不調等、業界や発注者側の対応能力の限界が心配される。

(職業安定所) … 介護施設や小売店などの新規開業予定もあり、求人数は依然として高水準で推移するものとみられるが、製造業からの雇用調整助成金の問い合わせや、企業整備予定などもあり、状況がさらに良くなることは考えにくい。

○「やや悪くなる」

(コンビニ) … 競争環境は激化が続く。来期以降の出店計画は過去最高となり、県内も同様の予測となっている。1店当たりの売上は更なる苦戦が予測される。

(都市型ホテル) … 被災地ということで前年来復興特需が続いていたが、個人、団体共に来客数が前年を割り始めており、来月以降の予約状況も前年同時期と比較して少なくなってきている。

(輸送業) … 現状も非常に厳しい状況ではあるが、さらに燃油、軽油の高騰もあり、業界は更に厳しくなっていくのが確実視されている。

○「悪くなる」

(スーパー) … 新政権が財政出動やら金融緩和、さらには成長戦略の3本の矢を立て続けに放ち、マインド的には明るくなる要素もある。しかし、それでも地方においてそれが企業業績や所得、雇用等に反映されるのはまだまだ先であるという認識が広まっている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上